

Kurata Chikatada Bunko(library) Collection  
Sketch about 'Siedlung' by Chikatada Kurata

---

蔵田周忠文庫所蔵  
寄贈資料：ジードルンクに関するスケッチ

---

岡山 理香

## 【資料紹介】

### 蔵田周忠文庫所蔵

#### 寄贈資料：ジードルンクに関するスケッチ

人文・社会科学系 人文・社会科学教育部門 岡山 理香

#### はじめに

東京都市大学（旧武蔵工業大学）世田谷キャンパス図書館4階には、貴重図書室があり、その中核を成すのが蔵田周忠文庫である。これは、武蔵工業大学建築学科教授であった蔵田周忠（くらた ちかただ 1895-1966）の蔵書が寄贈されたもので、約5500冊の国内外の図書および雑誌、書簡集、写真集、図面、スケッチなどによって形成されている。蔵田は、35年間武蔵工大の教員として、近代建築史の研究を専門とし、また公共施設、40棟以上の住宅を設計した建築家でもあった。そのため図書および雑誌は、大正から昭和にかけての建築、美術、民俗学が中心であるが、文学、哲学、芸能など幅広く収集されている。国内でも貴重となった資料も多数所蔵されているため、書籍および雑誌の復刻（グラフ誌『NIPPON』）、近年は、多くの展覧会への出品（「IMPOSSIBLE ARCHITECTURE」展2019年、「分離派建築会100年」展2020年、「東北へのまなざし1930-1945」2022年）などさまざまに活用されている。

書簡集の中には、ドイツの建築家ブルーノ・タウト（1880-1938）、パウハウス校長でもあった建築家ヴァルター・グロピウス（1883-1969）、分離派建築会のメンバーであった石本喜久治（1894-1963）、山田守（1894-1966）、堀口捨己（1895-1984）、山口文象（1902-1978）、民藝の柳宗悦（1889-1961）、今和次郎（1888-1973）など国内外の著名な建築家や芸術家、研究者の手紙や葉書も含まれている。蔵田のグローバルな人的交流を物語る個人的な資料であるとともに、当時の世相も反映された建築界の動向を知る手がかりとなるものである。

貴重図書室には、さらに建築書を中心とした、石本（喜久治）文庫、仲田（定之助）文庫、白鳥（義三）文庫がある。これも蔵田の人脈によるところが大きい。

本稿では、蔵田の描いた数多くのスケッチの中から、蔵田周忠文庫に寄贈された2枚の水彩画について紹介したい。2点ともに蔵田周忠が1930年（昭和5）～31年（昭和6）にかけて渡欧していた時期にドイツのジードルンク（Siedlung 集合住宅、住宅団地）を描いたものである。

ジードルンクは、ヴァイマル期ドイツで社会改良的な住宅供給によって1920～30年代にかけて建設されたものが有名である。

1923年（大正12）の関東大震災によって東京は大打撃を受けた。その復興計画の中で、住宅問題を解決するため同潤會が設立された。蔵田も建築家としてこの問題に向き合い、その一つの回答をジードルンクに見出していた。渡欧のさいにベルリン、フランクフルト近辺のみならず、シュトゥットガルトのヴァイセンホーフ・ジードルンクも数回視察し、さらにはブルーノ・タウトが設計したツェーレンドルフ・ジードルンクに一夏居住した。その記録は、写真や動画にも残されている。帰国後、蔵田はその見聞をまとめた『欧州建築の近代相』（1932年）を上梓し、「ジードルンクの新形態」（『建築論叢』1932年）という論文においては、ジードルンクの図版、平面図、設備や材料などの詳細なデータを載せている。蔵田は、日本初のジードルンクの実現を目指していた。結局、計画の全体は頓挫したが、東京世田谷に4棟のインターナショナル・スタイルの「等々力住宅区」を完成させた。この2点のスケッチは、蔵田のこうしたジードルンク計画の全容を知る重要な資料でもある。

本稿で紹介するスケッチ以外にも蔵田がジードルンクを描いたものがあり、順次紹介していきたいと思う。

資料 1



蔵田周忠(くらた ちかただ 1895-1966)

《ツェーレンドルフ・ジードルンク》

制作年 1930年(昭和5)

材質・技法・形状 水彩画(台紙あり)

寸法(cm) 30×39.8

署名・年記 画面右下「田蔵(蔵田)」判(赤)

所蔵 蔵田周忠文庫

所蔵経緯 市川昭男・淑子夫妻より寄贈(2009年12月)

解説

本資料は、市川昭男・淑子夫妻によって2009年12月に蔵田周忠文庫に寄贈された。市川昭男氏と稲葉淑子氏は、武蔵工業大学(現東京都市大学)工学部建築学科を1960年(昭和35)にご卒業され、お二人の結婚の仲人をされた蔵田が慶事のお祝いにと贈られたものである。本資料の所有者であった市川氏が2009年12月に世田谷キャンパス図書館で開催された展覧会「東京都市大学図書館所蔵 蔵田周忠文庫展 建築家蔵田周忠の住宅を中心とし



て」にお越しいただいたことをきっかけに、本資料が蔵田周忠文庫へ寄贈される運びとなった。

**対象：**画用紙の表に水彩で木立の奥に建築物が描かれている。題名は記されておらず、付随する関係資料もない。表面左下に「田蔵（蔵田）」の朱印がある。これは、市川夫妻へ贈るさいに押されたものと推測される。また、台紙に貼られたのもその時であろう。画面奥の建築物は、ブルーノ・タウトが設計したツェーレンドルフ・ジードルンク（1927年-1931年）の集合住宅と思われる。

**場所、時期：**蔵田は、ツェーレンドルフ・ジードルンクを2回以上訪れている。これは、著作および動画から判断される。このジードルンクは、ベルリン西南の郊外、オンケルトムス・ヒュッテ（アंकルトムの小屋）駅付近にある。初訪問の1930年（昭和5）5月は、線路の南側の一群、白樺の林のある黄色い壁の方だけが完成しており、北の方はまだ工事中であった。画面左に木立の間に木材などの資材が積まれている様子が描かれているところから、5月の訪問のさいのスケッチと判断される。

その後、ドイツ国内旅行から帰った同年8月20日より、一室を借りて一夏を過ごした。短期間ではあったが、戦前のドイツで実際にジードルンクを住まいとして生活した建築家は珍しい存在である。その貴重な経験は、蔵田の著書『ブルーノ・タウト』（1942年）に詳述されている。

この《ツェーレンドルフ・ジードルンク》は、来日したタウトも見ている。1933年（昭和8）5月に大阪朝日新聞社で講演したタウトは、「新興建築展」に出品されていたこの水彩画を見ている。

## 資料 2



蔵田周忠(くらた ちかただ 1895-1966)

《大ジードルンク・ブリッツ》

制作年 1931年(昭和6)

材質・技法・形状 水彩画

寸法(cm) 36.4 × 30.8

署名・年記 画面表左下「Berlin Britz 1931.kurata」、裏左下「タウトの作品より」鉛筆書き

所蔵 蔵田周忠文庫

所蔵経緯 東京都市大学 建築都市デザイン学部建築学科  
勝俣研究室より寄贈(2021年2月)

### 解説

本資料は、東京都市大学建築都市デザイン学部勝又研究室に保管されていたが、2021年3月に東京都市大学世田谷図書館蔵田周忠文庫に寄贈された。

対象：画用紙の表に水彩で建築物が描かれている。題名は記されておらず、付随する関係資料もない。表面左下に「Berlin Britz 1931.kurata」の文字が

ある。「1931」の前方にも文字があったと思われるが、四隅欠損により判読不可。裏面には、「タウトの作品より」と鉛筆書きされている。ブルーノ・タウトが設計した大ジードルンク・ブリッツ（1925-30年 ベルリン中心部より南の郊外にあり、馬蹄形住棟が有名）の資料と照合し、Rote Front（The red front）と呼ばれている場所のスケッチと筆者は考える。

場所、時期：蔵田は、実際に大ジードルンク・ブリッツを訪れている。当地で簡単なスケッチ、あるいは写真を撮って、それを帰宅後あるいは帰国後に仕上げることも考えられるが、蔵田は、タウトのジードルンクは色彩がその大きな特徴であると著書の中でも述べているので、その場での観察によって描かれたと考える方が自然である。ただ、蔵田は、壁面の塗料の色彩が強く「日本人にはどうしても親しみ得ない意思的な表現」（『ブルーノ・タウト』）であるとも感じていた。

当時の白黒画像は残っているが、カラーフィルムのない時代なので、このように色彩がわかる本資料は貴重である。紙面のサイズ、水彩の色調、肌理などが資料1《ツェーレンドルフ・ジードルンク》とほぼ同じである。したがって、資料2《大ジードルンク・ブリッツ》が1931年（昭和6）に描かれたものとする、資料1《ツェーレンドルフ・ジードルンク》も同地で描かれたと推測できる。

タウトが来日し、1933年（昭和8）9月13日から24日まで猿楽町の蔵田家に滞在した折に、この2枚の水彩画を見せると、タウトはひどく懐かしがって、またおおげさなほどの褒め方をした、と蔵田は回想している。

[付記]

資料1、2のカラー図版は、東京都市大学共通教育部ホームページ「東京都市大学共通教育部紀要」で公開。

## 参考文献

- Deutschen Werkbund, *Bau und Wohnung*, Stuttgart, Fr.Wedekind, 1927.
- Rasch, Heinz und Bodo, *WIE BAUEN? Bau und Einrichtung der Werkbundsiedlung am Weißenhof in Stuttgart 1927*, Akademischer Verlag Dr.FR.Wedekind-CO, 1927.
- 蔵田周忠『欧州都市の近代相』六文館、1932年2月
- 蔵田周忠「ジードルンクの新形態」『建築様式論叢』六文館、1932年6月
- 蔵田周忠『現代建築 後篇 實用建築講座』東學社、1935年4月
- 蔵田周忠『ブルーノ・タウト 建築新書5』相模書房、1942年7月
- 海老澤模奈人『ジードルンク 住宅団地と近代建築家』鹿島出版会、2020年8月
- 海老澤模奈人「大ジードルンク・ブリッツにおけるブルーノ・タウトの色彩計画の関する考察」『日本建築学会計画系論文集』第86巻、第782号、日本建築学会、2021年4月
- 岡山理香「建築家蔵田周忠の住宅 一現存する三棟を中心として」『東京都市大学共通教育部紀要』Vol.4 2011年3月
- 岡山理香「近代建築思潮の形成における蔵田周忠の役割について(1) 一蔵田文庫所蔵未発表動画資料の分析とともに」『東京都市大学共通教育部紀要』 Vol.6 2013年3月
- 岡山理香「東京物語 ブルーノ・タウト」『建築東京』Vol.52 No.615 東京建築士会、2016年1月

